

授業改善等支援事業を基にした中学校区による学力向上に向けた取組

厚岸町教育委員会、厚岸町立厚岸小学校、厚岸町立真龍小学校、
厚岸町立厚岸中学校、厚岸町立真龍中学校

I はじめに

厚岸町では、学力向上の課題として「中学校第1学年の数学科における調査結果が全国平均から下回っていること」「算数・数学科の調査において小学校第6学年から中学校第1学年にかけて平均値が大きく下がること」があげられる。そこで本町の児童生徒に確かな学力を身に付けさせるため、平成29年度から厚岸町教育委員会及び授業改善等支援事業の拠点校3校、オブザーバーの学校1校を加え、4校による学力向上の取組を推進している。

II 実践の内容

1 小・中学校が連携した学力向上の組織づくり

拠点校である厚岸小学校、真龍小学校、真龍中学校と、オブザーバー校として厚岸中学校を加えた4校で、「校長」「教頭」「教務主任」「研修担当」等の部会を構成し、小・中学校が連携し、系統性を踏まえた学力向上の取組を推進するよう、検討会議の体制を整えた。

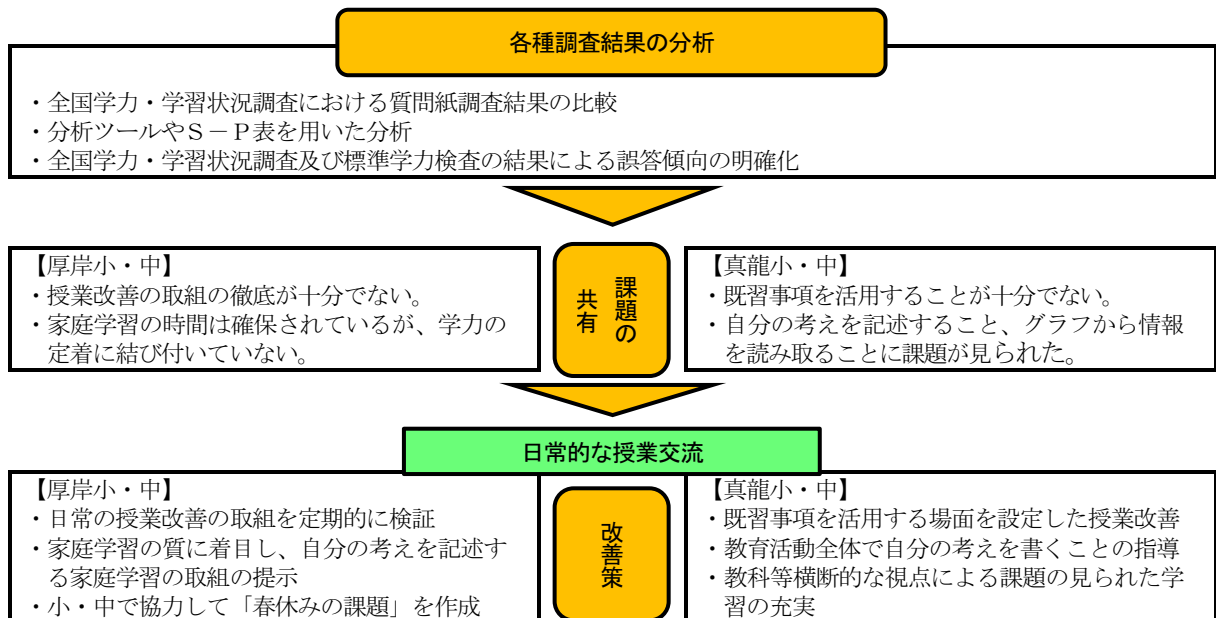
検討会議は月1回の開催を基本とし、各部会1～3回の会議を計画し、「児童生徒の学習状況」「算数・数学科における習熟度別指導の在り方」等をテーマとして取り上げ、改善の方策を協議している。

部会	会議内容
校長	・今年度の方向性の検討 ・事業の総括
教頭	・小・中学校の系統性を踏まえた学力向上の取組
小学校 第6学年学級担任 中学校 数学科担当教諭	・算数・数学科における習熟度別指導の在り方

【各部会における検討会議内容（一部）】

2 課題解決に向けた学力向上の取組

全国学力・学習状況調査等の各種調査結果を分析し、下記のように分析結果を検討会議で共有することを通して、中学校区ごと取組の充実を図った。



III 実践の成果（○）と課題（●）

- 各中学校区において、児童生徒の課題を共有し、学力向上に向けた取組を検討することを通して、共通した手立てや系統性を踏まえた指導について共通理解を図り、組織的な取組を推進することができた。
- 各種調査の結果で明確になった課題の解決に向け、組織的な学力向上の取組を一層推進する必要がある。また、本実践における小中連携の取組を生かして、今後は保護者や地域と連携しながら、厚岸町として小・中9年間の育成を目指す学びとして整理していく必要がある。